＊＊＊・・・＋－＊＊＊＊・・・＊＊＋＋＋＋・・・＋＋＋－－－・・・＋－＊＊＊＊

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

E メール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2026年10月19日(月)

NO. 1722号

本号3頁

憲法会議 秋の憲法講座開催 改憲・大軍拡阻止のたたかいを

憲法会議は17日、秋の憲法講座「戦争か平和への岐路 － 大軍拡・改憲阻止 憲法をいかした政治を!」を都内大塚のラパスホールで開催しました。会場いっぱいの参加者とオンライン参加者合わせて130人が参加しました。

東京憲法会議の田中章史事務局長が開会あいさつ。「全国で若者を中心に憲法を守ろうと大きな運動が起きている。改憲を進ませなかった第221回国会での論戦、そして各地での国民のたたかいの教訓を学び、大軍拡反対、憲法を守るゆるぎない運動をしていこう」と呼びかけました。

日本共産党の仁比聡平参院議員が国会報告。先の国会での高市政権とのたたかいを語り、衆院比例定数削減を許さず、憲法を生かす政治の実現に向けた決意を述べました。



改憲問題法律家6団体連絡会事務局長の大江京子弁護士が「高市政権の動向と私たちの対抗」と題して講演しました。憲法前文には、構造的暴力のない積極的平和、依拠するのは諸国民の公平と信義、平和的生存権が書かれていると述べ、「憲法9条は徹底的な非暴力を謳っている。これは、戦争時のアジアに対する痛烈な反省と、唯一の戦争被爆国としての経験に基づいている」と話しました。

そして、自民・維新政権は、憲法に「任期延長、緊急政令、緊急財政処分」の3つの緊急事態条項の創設を目指していると指摘。憲法の自衛隊明記は平和憲法の規定を根本から変える危険性があるとして、「全国で、多くの市民がつながりを路上から声をあげている。署名運動にも参加し、国会を変えるしかない」と語りました。

閉会あいさつを千葉県憲法会議の寺田勝弘事務局長が行いました。千葉でもペンライトを持った若い女性なども参加し、戦争反対・改憲阻止のたたかいが広がっていると報告。そして、本日学んだことを力に大軍拡・改憲阻止のたたかいを全国各地で奮闘しようと呼びかけました。

この憲法講座との録画は憲法会議のホームページから視聴できるようにしてあります。また、大江氏の講演レジメも掲載してあります。是非、ご視聴ください。

内閣支持率42％に下落 築氏続投判断8割問題視ー時事

時事通信が9～12日に実施した10月の世論調査によると、高市内閣の支持率は前月比1.7ポイント減の42,4％でした。下落は5カ月連続。これまでの最低値を更新しました。不支持率は同0.4ポイント増の29.7％。農林水産相を辞任した簗和生衆院議員の問題が報じられる中、半月にわたり続投させた高市早苗首相の判断も影響したとみられます。

簗氏を巡っては9月30日以降、地元自治体の「道路予算カット」発言や衆院選で支援者を無料バスで運んだとする公選法違反疑惑が報じられましたが、首相が事実上の更迭に踏み切ったのは10月14日でした。

簗氏を続投させるとしていた判断の是非について尋ねたところ、49.6％が「問題だ」と答え、「どちらかと言えば問題だ」の28.4％と合わせると、問題視する声は８割弱に上った。擁護する声は13.2％にとどまりました。

高市内閣支持率、発足以来初の50％割れ、簗氏更迭「遅過ぎた」57.7％ー共同

共同通信社は17、18両日、全国電話世論調査を実施しました。高市内閣の支持率は49.1％で、政権発足以来初めて50％を割り込み最低となりました。簗和生前農相を更迭した高市早苗首相の判

断について「遅過ぎた」が 57.7%。首相の後手対応が支持率下落に影響した可能性があります。消費税減税とともに導入する所得連動型の給付制度に賛成は 50.8%、反対は 42.9%で評価が分かれました。減税が財政に与える影響に「不安を感じる」「ある程度」を含めて 65.1%となりました。

簗氏の農相辞任は「当然だ」との回答が 81.5%で、「辞任する必要はなかった」は 11.1%にとどまりました。更迭のタイミングが「適切だった」は 25.7%、「早過ぎた」3.6%、「更迭する必要はなかった」5.7%でした。

農相辞任が高市内閣の今後の政権運営に「影響がある」との回答は「ある程度」を含めて 54.7%。「影響はない」は「あまり影響はない」を含め、42.7%となりました。

中司行革相革相、枚方市長時代の談合事件を巡り、裁判で虚偽の陳述を重ねる?

裏金議員 2 人、簗和生氏（不記載 1746 万円）と関芳弘氏（同 836 万円）を入閣させた高市首相。党の処分を受けた議員の入閣は初めてでした。その簗氏は農林水産相を辞任し、そして関文科大臣が「議員会館でパーティー　利益率 9 割」と報道されています。

さらに、今回の日本維新の会から初入閣した中司宏行革相（70 歳）も、自身が有罪判決を受けた枚方市長時代の談合事件を巡り、証人として出廷した裁判で虚偽の陳述を重ねていた可能性がある等と報じられています。

『週刊現代』が入手した、事件の共謀者との会話を収めた音声記録で、中司氏自身が認めていました。さらに、音声データの中で、中司氏は枚方市長時代に、民間企業から継続的に裏金を受け取っていたことも認めていました。

偽証罪や政治資金規正法違反、収賄罪などに該当しかねない発言が次々と明らかになったことで、閣僚としての資質が厳しく問われています。

発売中の『週刊現代』10 月 26 日号（講談社発行）で詳報していますが、ここにその音声記録の一部を紹介します。

元側近が「中司氏に裏金を渡した」と暴露

「現在も無罪を主張されているのであれば、なぜこれまで再審請求をされなかったんでしょうか」

10 月 9 日の参院代表質問において、国民民主党の舟山康江参院議員会長からこう問われたのは、日本維新の会から初入閣した中司宏行革相。中司氏の答弁は、歯切れの悪いものでした。

「今は内閣の一員として大臣の職責を全身全霊で果たして参りたいと考えております」

中司氏には、再審請求を出来ない深い事情があったーー。

中司氏は、大阪府の枚方市長時代の談合事件を巡り、懲役 1 年 6 ヵ月、執行猶予 3 年の有罪判決が確定した後も、「冤罪」を主張してきた経緯があります。枚方市の新清掃工場建設工事を巡り、中司氏らが大林組に受注調整を依頼していたという事件でした。

さらに、ここにきて、新疑惑も浮上しています。週刊現代 10 月 12 日号が報じた「裏金疑惑」です。　談合事件を巡っては、中司氏の側近だった初田豊三郎元枚方市議が、大林組側から 3000 万円の裏金を受領。収賄罪にも問われ、実刑判決を受けた（贈賄側の大林組幹部も有罪判決）。その初田氏が筆者に、枚方市長時代の中司氏と共謀し、民間企業から継続的に「裏金」を受け取ってきたことを告発した上で、「大林組側から受け取ったお金についても、400 万～500 万円を中司氏に渡した」と明かしたのです。

揺るがめ共闘広げる　市民連合と共産党　政権暴走阻止へ

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合（市民連合）は 15 日、国会内で日本共産党の田村智子委員長、小池晃書記局長と懇談し、高市政権による憲法改定や大軍拡、定数削減の阻止など、臨時国会の重大な焦点に関する緊急要請書を手渡しました。田村氏は要請に全面的に同意し、「これからも揺るぎない共闘をみなさんと一緒に広めていきたい」と表明しました。

田村氏は、高市政権が今国会でもくろむ衆院議員定数削減に対し、野党が与党提出法案の審議阻止という一致点で共闘していることに触れ、「緊急の一致点で共同していくことは、私たち日本共産党のぶれない不動の路線だ」と強調しました。

14 日に採択した第 30 回党大会決議案でも、「国民的な共同と団結＝統一戦線によって政治を変える」という方針を明記していると紹介。「国民のみなさん、野党のみなさんと一緒に力をあわせることなしに政治を変えることはできない」と述べ、ぶれずに共闘路線を貫く立場を表明しました。高市政権による戦争国家づくりを阻止していくためにも、「改憲反対・大軍拡反対の揺るがない国民多数の共同をつくることが最大の力になる」と述べました。

小池氏は、「野党共闘方針の見直し」という一部報道があることに触れ、「一致する課題で協力して政治を変えていくということは党綱領にも明記されており、方針は一貫している」と強調。「国民的な共同を前進させるためにも、共産党の躍進が最大の力になる」と述べました。

市民連合の多々良哲共同代表は、「予算カット」発言などで辞任した簗和生（やな・かずお）前農林水産相の問題は、行政の公正性と民主主義を踏みにじるものだと非難。「高市政権は決して盤石ではない。野党が結束し、国民がそれを後押しすれば倒せるはず。さらに結束して頑張っていきたい」と強調しました。

小泉防衛相 陸自「現地情報隊」の個人情報調査収集問題 明言避ける

小泉進次郎防衛相は 16 日の参院予算委員会で、陸上自衛隊中央情報隊の「現地情報隊」が、日本国内の有識者にヒアリングをし思想信条などの個した文書を作成していたとされる問題について、当該文書に関する認識を問われ、「防衛省・自衛隊が公表したものではなく、その出どころや真正性が確認できていないので、お答えすることは差し控える」として明言を避けました。立憲民主党の辻元清美議員への答弁。

辻元氏は「『現地情報隊』が海外情報などを調べるため、国内有識者にヒアリングをし、そのときに『個人 BSD（ベーシックソースデータ）報告書』をつくって身体的特徴、対日本感情、対自衛隊感情、思想信条、金銭状況、異性関係、性的指向など 41 項目、関係者を 20 人までリスト化されるような文書をつくっていたというのは見たことはありますか」と質問。小泉氏は「報道で言及された文書」とした上で、「防衛省・自衛隊が公表したものではなく、その出どころや真正性を確認できていない」として、答弁を避けました。辻元氏は、「調査対象者への接触マニュアルには、印鑑を押すようなところもあるが、そういう様式の文書は見たことないですか」と再度問うたが、小泉氏は「私に対して必要な情報は上がってくるし、必要なものは確認しているが、この文書は一部の報道機関が報道しているが、我々防衛省・自衛隊の文書だと確認しているものではなく、出どころ、真正性を確認できていないのでお答えできることはできないということも当然ではないでしょうか」と、突っぱねるように答弁しました。

辻元氏は「小泉さん、その文書は私の手元にあるんです。それを見ながら質問しています」と述べ、2017 年に南スーダン国連平和維持活動（PKO）部隊の日報隠蔽（いんぺい）問題で、当時の稲田朋美防衛相が辞任に追い込まれたケースに言及。「イラクの問題の時に私、質問したんです。ずっと防衛省は（日報は）『ない』と言っていたが、私が言ったところから出てきた。その責任を取って幕僚長は辞任しました。その時に稲田大臣には情報が届いていなかったから、稲田大臣も『ありません』『ありません』と。稲田大臣も責任を取って辞任したんですよ」と、当時のいきさつを指摘。「あとで持っていきますから、入手しましたから。小泉大臣の目でよく見ていただいて調査をしてほしい」と、当該文書を渡すとして、あらためて調査するよう求めました。

小泉氏はそれでも「報道に基づいたことも真正性、出どころを確認していないのと同じように、辻元委員が持っている（文書）ということも、私は出どころと真正性を確認しておりません」とかみ合わない発言をし、野党席から「答えてないよ!」と批判のヤジが飛んだびました。

辻元氏は小泉氏の「塩答弁」に「しっかりやらないと、後から（文書が）出てきたら稲田さんのように辞任になりかねない案件ですよ」とピシャリ。「お昼休みに渡しますから、見てください」と述べ、文書を手渡すのでよく確認するよう、強い調子で求めました。